

平成30年度全国学力・学習状況調査

朝来市立大蔵小学校6年生

学力・学習状況調査の分析結果

調査の概要

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。今年度は、平成24年度から3年間おきに実施されている理科を含み、悉皆調査として文部科学省によりすべての小・中学校が対象としてこの調査が実施されました。



調査の内容

■ 教科に関する調査 【国語、算数、理科】

● 「知識」に関する調査

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

● 「活用」に関する調査

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

● 理科は、主として「知識」と「活用」に関する問題を一体的に問う形での出題。

■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

● 児童生徒に対する調査、学校に対する調査

学力調査の結果

国語 全国・県平均と同様

算数 全国・県平均をやや下回る

理科 全国・県平均と同様

国語の結果

「知識に関する問題」「活用に関する問題」とも、全国・県平均とほぼ同等である。活用に関する最終問題「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」を問う問題では、平均より20ポイントほど高かった。記述式の問題であったにもかかわらず、高い正答率だったのは、本校児童の「読書量が多い」ことが関係していると考えられる。

知識問題

正答率は、全国や県平均と同様

よい傾向の内容

- 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えること。
- 目的に応じて必要な情報を伝えること。
- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。

課題のある内容

- 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えること。



活用問題

正答率は、全国や県平均と同様

よい傾向の内容

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
- 話合いの参加者として、質問の意図を捉えること。
- 推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えること。



課題のある内容

- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること。
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。



指導改善のポイント

- 学校行事などで話をしたり、案内の手紙を書いたりするなど、様々な場の状況で敬語を使うことに慣れさせる。
- 物語を読みとらせる時に、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むような指導を工夫する。
- 漢字の指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要であり習慣化させる。
- 司会者、提案者、参加者、解説係などの役割をそれぞれが体験できるような話し合い活動を行う。
- 出題形式やテスト方式に慣れさせることも必要。（消去法、時間配分など）

算数の結果

「知識に関する問題」「活用に関する問題」を通して見られる傾向は、問題文から必要な情報を読み取って、立式したり、文章にまとめたりする力が低いことがあげられる。また、無回答の児童も数名おり、自分の考えをまとめる、長文の問題に慣れる、全問題を考えるための時間配分の向上が必要であることが見えてきた。

知識問題

正答率は、全国や県平均をやや下回る

よい傾向の内容

- 数の大小についての理解が高いこと。
- 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解していること。
- 角の大きさの理解、分度器を用いて角の大きさを求めることがよくできていること。



課題のある内容

- 数量の関係を理解し、数直線上に表すことが不十分であること。
- 「直径の長さ」と「円周の長さの関係」「百分率」の知識の定着が不十分であること。
- 最後まで問題を解くことができていない児童もいること。

活用問題

正答率は、全国や県平均と同様

よい傾向の内容

- 問題を読み、条件に合う図形を見いだして答えること。
- 規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断すること。

課題のある内容

- 示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることが不十分であること。
- 棒グラフや帯グラフの資料から読み取ることができることを適切に判断することが不十分であること。
- 示された数量や資料を関連づけ、根拠を明確にして記述することが苦手であること。

指導改善のポイント

- ドリルタイムを効果的に活用し、既習の計算問題を正確に解く力や文章を読んで立式したり、考えをまとめたりする力を高める。
- 算数だけでなく、あらゆる活動の中で自分の考えをまとめさせることを大切にしながら指導を行っていく。
- 長い文章を読んで問題に答えることを意図的に取り入れ、長文読解力の向上を図る。

理科の結果

正答率は、全国や県平均と同様

理科は、「知識」と「活用」に関する問題を一体化しての出題となっている。

本校児童は、「知識」に関する問題に対しては、8割の平均正答率であった。

「活用」に関する問題では、全国平均と同様であり正答率が6割に満たないものもあった。特に記述式の問題に対しては、全国的な傾向と同じく、科学的な思考や表現に基づき回答することを苦手としている児童が多く正答率が低かった。

よい傾向の内容

- 生物を愛護する態度をもち野鳥の観察方法を構想することができる。
- 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。
- 人体の関節の仕組みを模型に適用することができる。
- 電気に関する問題は比較的よくできていた。

課題のある内容

- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察を行いその内容を記述すること。
- より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら分析して考察すること。
- 問題を理解し、適切な資料を選択することができていない。

指導改善のポイント

- 実験結果から分析し考察する力をつける。
 - ・ 考察の書き方を理解させる。
 - ・ 自分の言葉でまとめて書けるようにする。
 - ・ 理科教材「理科プラス」の効果的な活用をする。



生活・学習面の結果

全体的概要

夢や目標を持って日々努力している児童が多い。また、規範意識が高く、学校のきまりを守ろうとする気持ちが強い。基本的な生活習慣においても、ほぼ毎日決まった時刻での寝起きが来ている。朝食もしっかりと食べるなどの食生活も安定している。自分たちの住んでいる地域への関心もあり、行事にも積極的に参加することができている。家庭学習の習慣は身につけているが、学習時間が短い児童が多いことが課題である。

規範意識・自尊感情について

よい傾向の内容

- 学校のきまりを守っているという意識は全国を大きく上回っている。
- 自分にはよいところがある、人の役に立ちたいと思っていると回答した児童が多く、自尊感情も高い。

課題のある内容

- いじめに対しては、「どんな理由があってもいけないこと」に当てはまらない意識の児童もいる。
- よいところを認めてもらっていると感じている児童は全国を下回っている。



指導改善のポイント

- 指導者は、児童が、自分のよいところを認められていると実感できるような声かけやほめ方を意識して、認め・褒める場面を増やしていく。
- 「いじめを絶対許さない・見逃さない」未然防止、早期対応、組織的対応の徹底を図る。

基本的な生活習慣について

よい傾向の内容

- 毎日決まった時刻に寝る、起きる、朝ご飯を食べるなどの、基本的な生活習慣は身につけている。
- 家に帰ったら宿題をしたり、家庭学習を計画的にしたりする家庭学習の習慣ができています。
- 本も新聞もよく読んでいる。県全国平均の2倍以上の割合である。ゲームをする時間が全国県と比較しても短い。

課題のある内容

- 家庭学習の時間が短い児童が多い。

指導改善のポイント

- 家庭学習の習慣はついていますが、宿題以外の学習をする時間が少なく、全体として家庭学習の時間が短い。小中連携での発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を作成する。学習時間の確保や学習内容の充実と習慣化を図るため系統だった統一的な指導を行う。

【和田山中学校区小中連携推進事業学習部会で作成中】

学習に向かう意欲・力について

よい傾向の内容

- 算数や理科の学習は大切だと思っている。
- 算数の学習に意欲があるが、苦手意識もある。
- 理科の学習はおおむね理解できており、役に立つと考えている。
- 自然観察や実験には、関心も高く興味を持っている。

課題のある内容

- わからない問題は、諦めるのが早い児童が多い。
- 算数の学習を生活の中で活用しているという認識が薄い児童が多い。
- 自分の考えを文章で表現することが苦手としている児童が多い。
- 理科に関係する仕事に就きたいと思う児童が少ない。



指導改善のポイント

- 児童の主体的な学びを引き出せる授業づくりの工夫改善。
例えば、問題解決型学習により考える楽しみや問題を解決した時の喜びをしっかりと実感させる。
- キャリア教育の視点から自分の目指す将来像や直面する様々な課題を解決していく能力を身につけさせていくために、学習と生活が結びつけた指導を行っていく。

地域・社会への関心について

よい傾向の内容

- 自分の住んでいる地域への関心が高い。
- 地域の活動にも積極的に参加している。
参加率は、県全国平均の2倍以上である。
- 家の人と学校での出来事についてよく話ができている。
- 地域や社会をよくしたいと考える児童がとても多い。



課題のある内容

- 社会のできごとに対する関心がやや低い。
- 全国傾向と同じく社会の情報等がネット情報で得る児童が急増してきている。

指導改善のポイント

- 世の中の色々なできごとに関心が持てるような指導の工夫。
- 全国的に比較してもとても新聞をよく見ているが、ニュースなどの情報収集は、インターネットを活用すること方が多い。新聞記事などを活用して子ども達の視野を広げる指導の工夫や謝った情報に流されたり、トラブルに巻き込まれたりしないよう情報機器取扱に関する指導の徹底を図る。

次年度に向けて

本校児童の課題は、自己の考えを相手へ根拠を持ってしっかりと伝える力を育成することである。そこで、「自分の考えを持ち、伝え合い主体的に学び表現する大蔵っ子の育成」をテーマに言語活動の充実を図り実践を行ってきた。

その結果、児童は、自分の考えを持ち発表しようとする意欲が高まり、話を聞こうとする姿勢も高まってきた。しかし発表の声が小さいことや、意見を持っていても表現の仕方が分からない児童がいることなど、言語活動を充実させるための指導が必要である。今回の調査においても自分の考えをまとめ伝える力に課題があった。今後、国語科の授業づくりと児童の言語活動のさらなる充実や教育に関する検証改善サイクルを行い、改善状況等の把握と成果をもとにつつ新たな課題を踏まえた取組を行っていく。